

CYBERNET

IMail Server v12.6
IMail Premium v12.6
インストールガイド

2022年8月25日

内容

1:インストール前に	3
1-1: Windows Server での事前設定	4
1-2:インストールに関して	9
2:インストーラーの起動について	9
3:アクティベーション	11
3-1:インターネットにアクセスできる環境の場合	12
3-2:インターネットにアクセスできない環境の場合	13
4:新規インストール	19
5: ディアクティベーション/評価ライセンスから製品版ライセンスへの切り替え	28
6:SQL Server オブジェクトの設定	32

1:インストール前に

本書は IMail Server v12.6 を新規インストールする際のガイドです。旧バージョンからアップグレードされる際には別紙の「アップグレードガイド」をご確認ください。

【対応 OS】

- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022

【必要ソフトウェア】

- Internet Information Service(IIS) 8.0 以上
- Microsoft Data Access Component (MDAC) 2.8 SP1 or later
- Microsoft .Net Framework 4.5 以上
- Microsoft Visual C++ 2017 Redistributable (x86) 以降または Microsoft Visual C++ 2015-2022 Redistributable (x86)

【ハードウェア要件】

- インテル Xeon D、W、E プロセッサ または AMD Epyc モデル
- 16GB 以上のメモリ
- SSD (NVMe 推奨) または SAS 15K HDD

【注意】

- ドメインコントローラー上への IMail Server のインストールはサポートされていません。
- IMail WebMessaging (Web メール) をご利用になる場合、アドレス帳の保存先として Access MDB Database 又は Microsoft SQL Server Express 2014 以降 (SQL Management studio 含む) が必要です。Access MDB Database は、IMail Server のインストーラよりインストール可能です。Microsoft SQL Server Express (SQL Management studio 含む) は Microsoft 社の Web サイトより入手いただき、**IMail Server のインストール前にインストールしてください。**20 ユーザ以上で IMail WebMessaging をご利用になる場合は、MDB ではなく、SQL Server をご利用ください。
- **SQL Server をお使いになる場合、IMail Server のインストール後に本ドキュメントの「6:SQL Server オブジェクトの設定」で説明している設定作業を行ってください。**

1-1: Windows Server での事前設定

IEmail Server のインストール前に、ここで説明する IIS のインストールおよび設定を行ってください。

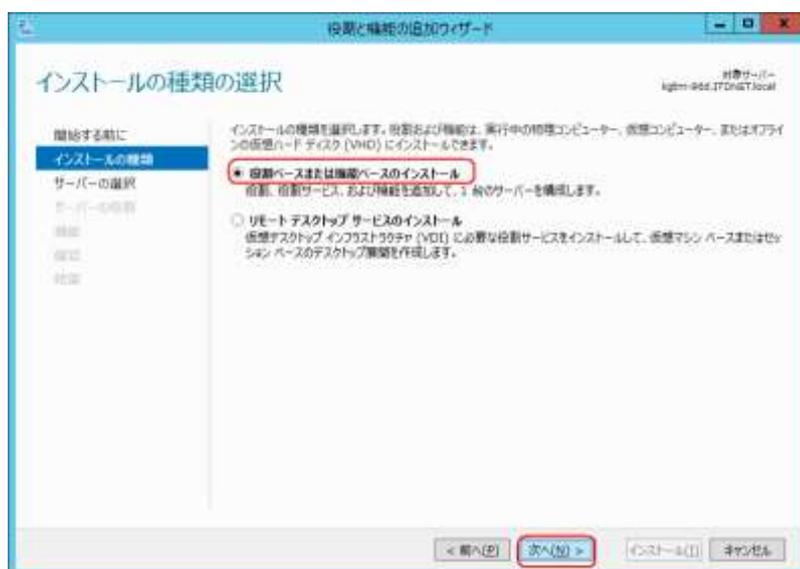
- 1) 「役割と機能の追加」を選択します。



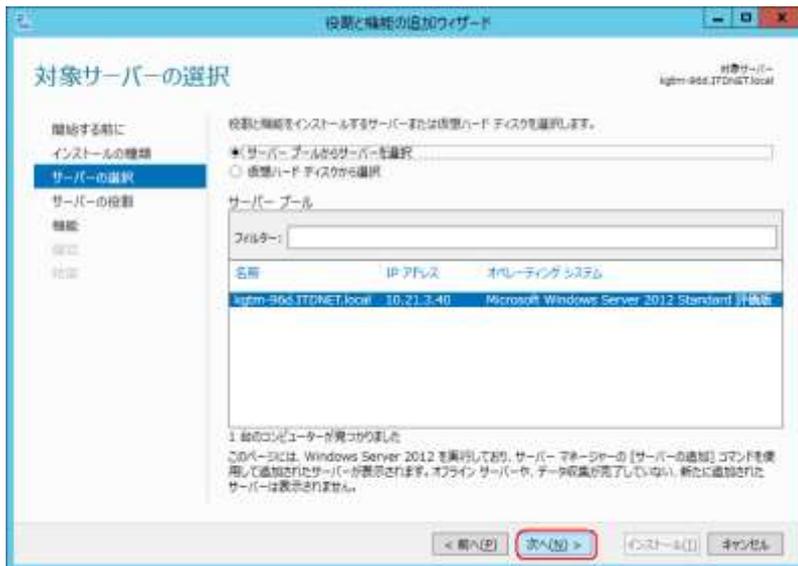
- 2) 【次へ(N)】ボタンを押します。



- 3) 「役割ベースまたは機能ベースのインストール」を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。



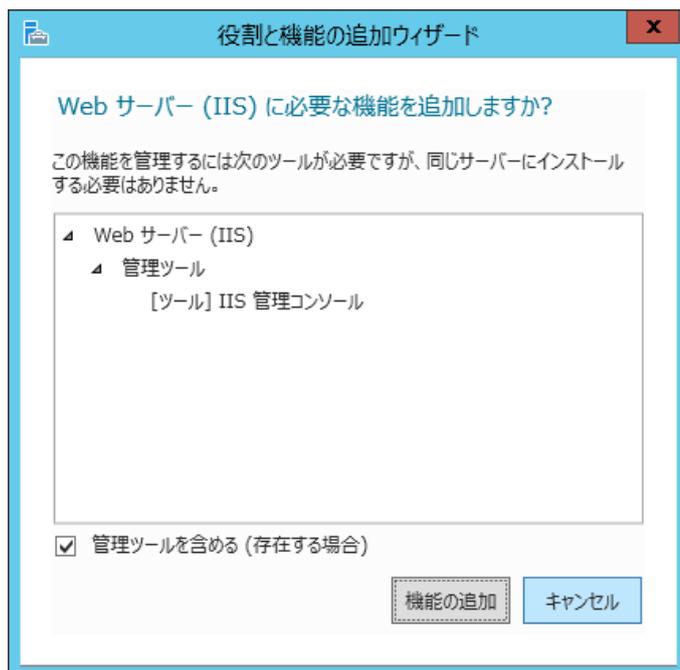
- 4) サーバプールに今回 IMail Server をインストールするサーバーの名前が表記されている事を確認し、【次へ(N)】ボタンを押します。



- 5) サーバーの役割より「Web サーバー (IIS)」を選択します。



- 6) 先の 5)で「Web サーバー (IIS)」を選択した際に、下記画面が表示された場合、【機能の追加】をクリックします。5)の画面に戻りますので【次へ(N)】ボタンを押します。



- 7) 「.NET Framework 4.x Features」の下にある「ASP.NET 4.x」を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。(下記は、Windows Server 2012R2 の例です。)

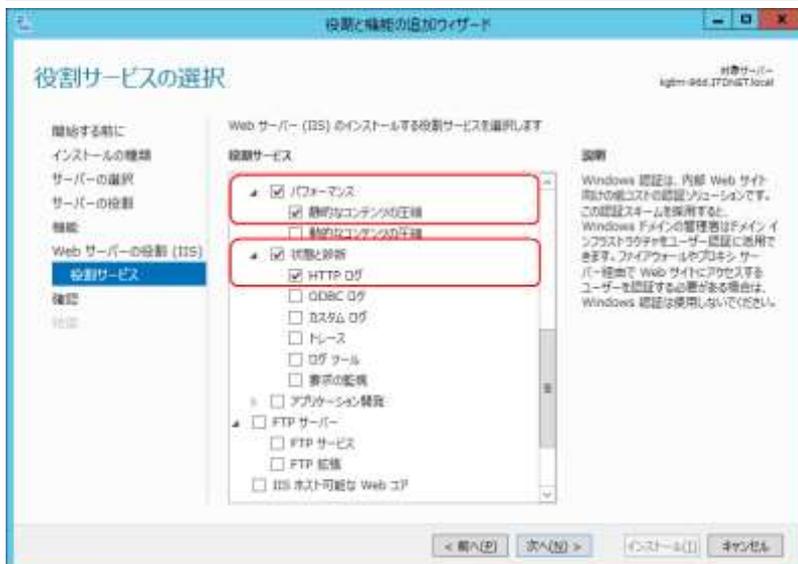


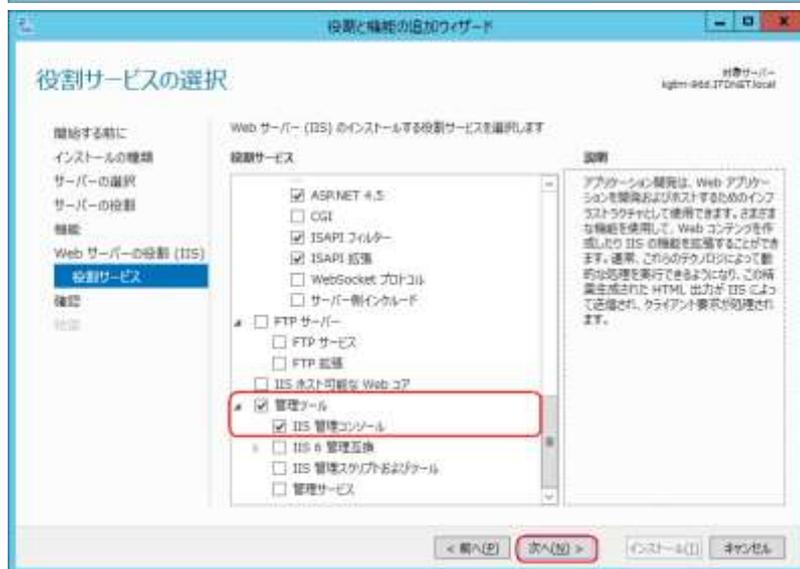
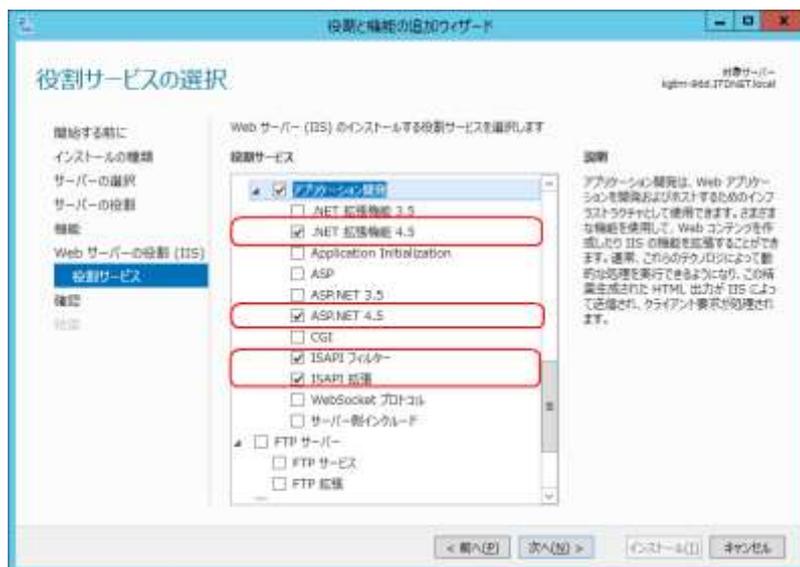
8) 【次へ(N)】ボタンを押します。



9) 赤枠で囲まれた項目を選択し、【次へ(N)】ボタンを押します。

※IMail Server インストールに必要な最低限な項目のみ選択しています。その他の項目を選択されても問題ありません。

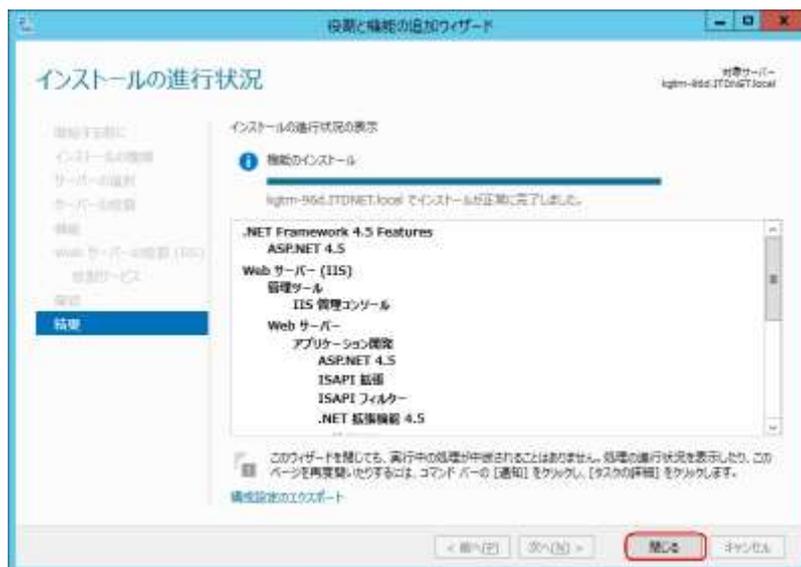




10) 「必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する」を選択し、【インストール(I)】ボタンを押します。



11) インストール終了後、【閉じる】ボタンを押し、本画面を終了します。



【注意】

IIS をインストールした際に Microsoft SMTP Service がインストールされる場合があります。この場合 IMail Server の SMTP ポートとバッティングし、IMail Server が正しく動作しない原因となります。インストールされた場合、Windows のサービスから Microsoft SMTP Service を停止し、“スタートアップの種類”を”無効”にしてください。

1-2:インストールに関して

IMail Server ではインストールの際にライセンスのアクティベーション(有効化)が必要になります。

IMail Server をご購入時に納品される「IMail Server ライセンス証書」に記載のある「プログラムキー」をお手元にご用意ください。

2:インストーラーの起動について

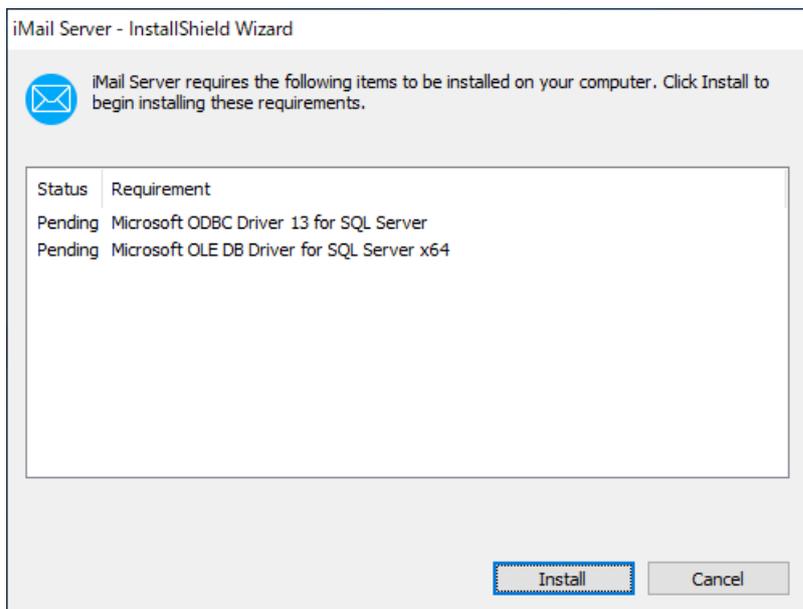
下記 Web サイト「テクさぼ」よりログイン後、「FAQ/お問い合わせ」>「IMail 製品」>「ダウンロード」>「製品モジュール」>「IMail Server v12.6 モジュールダウンロード」に進んでください。

テクさぼ

<https://secure.okbiz.jp/cybernet/>

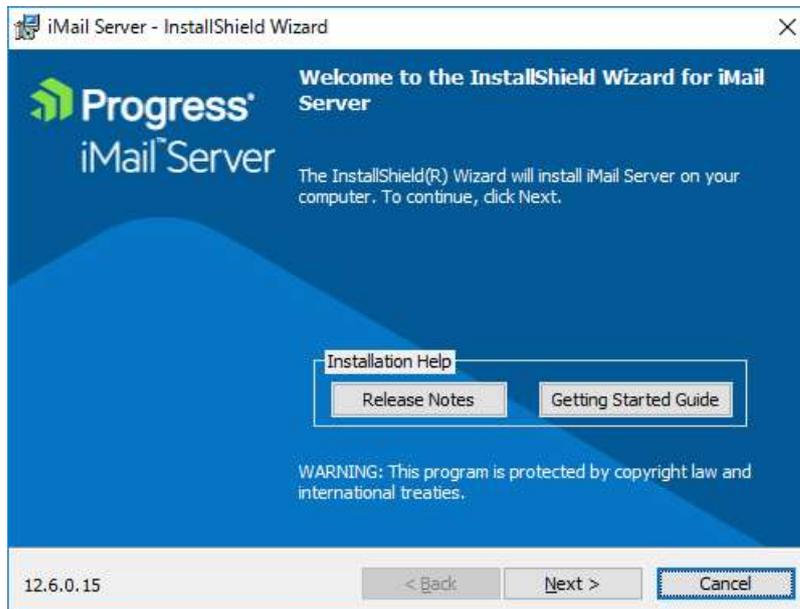
ログインアカウントはご購入時に弊社よりお送りしているメール「【重要：ライセンス証書納品】IMail Server」の本文に「テクさぼアカウント」として記載されております。

インストールを開始するにはダウンロードした iMail-12.6.exe ファイルを Windows の管理者アカウントで実行します。インストーラーが起動すると、下記の画面が表示される場合があります。これらは iMail Server の実行に必要なファイルですので、[Install] をクリックしてインストールしてください。

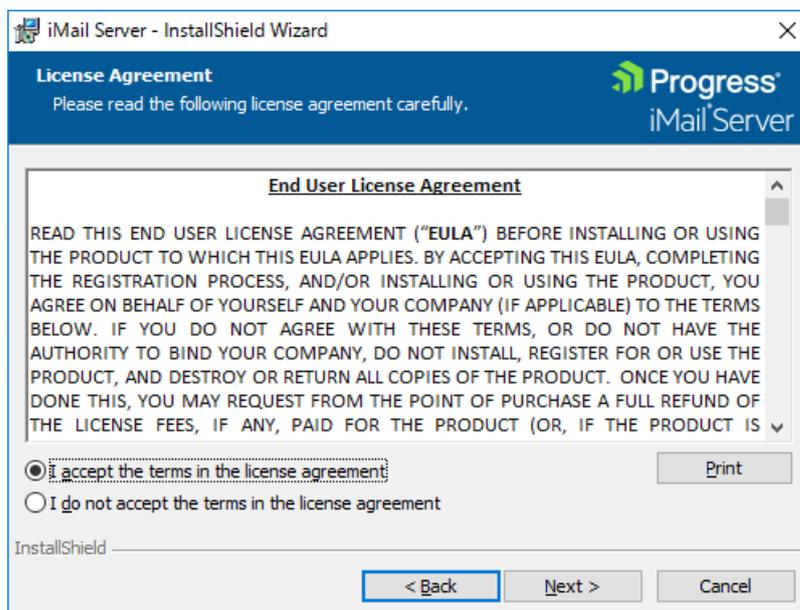


3:アクティベーション

インストーラー画面の【Next】ボタンをクリックして次に進みます。



使用許諾の内容を確認して「I accept the terms in the license agreement」を選択し、【Next】ボタンをクリックして次に進みます。



3-1:インターネットにアクセスできる環境の場合

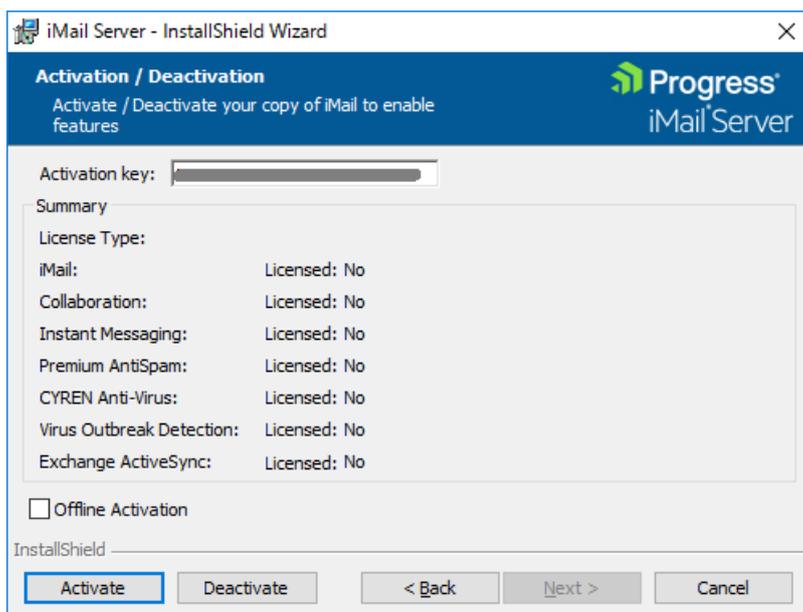
インターネットにアクセスできる環境では Online アクティベーションが可能です。

1) 「Activation Key」にプログラムキーを入力し【Activate】ボタンを押して、次の画面に進みます。

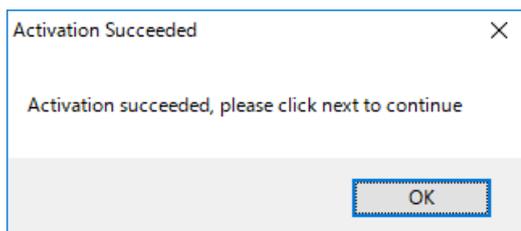
《注意》

プログラムキーは**半角英数字『23桁』**です。

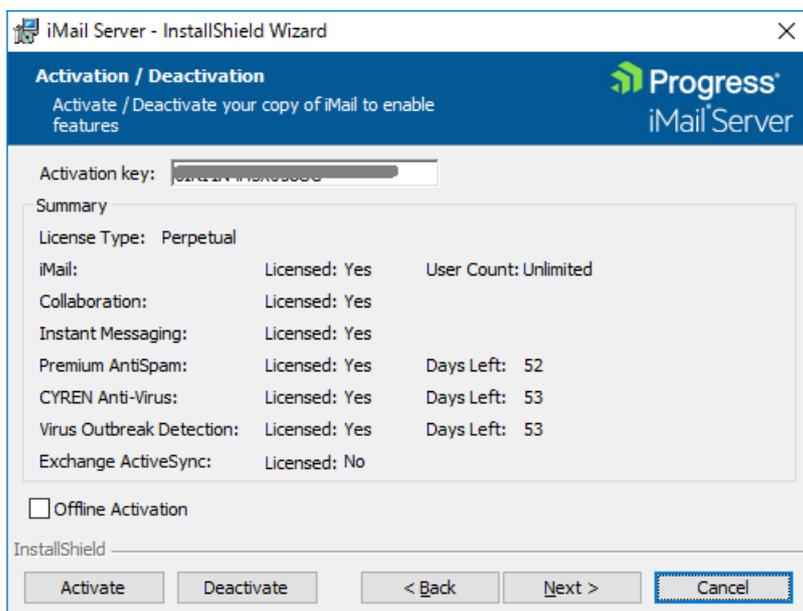
入力したプログラムキーの桁数が正しいかご確認ください。



下記メッセージが表示されればアクティベーションが正常に完了しています。



- 2) 画面には下記のようにライセンスにて有効化された項目が表示されます。【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。

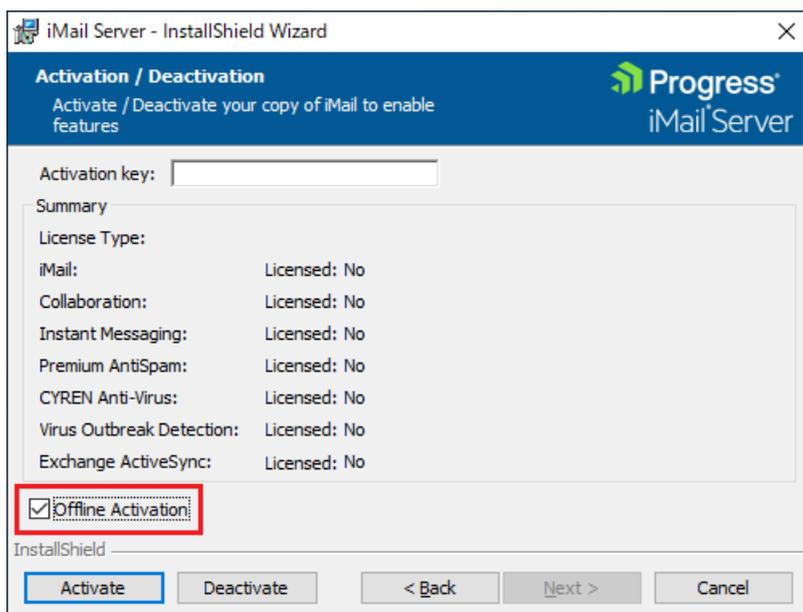


アクティベーション終了後は、「4:新規インストール」に進みます。

3-2:インターネットにアクセスできない環境の場合

インターネットにアクセスできない環境でアクティベーションを行なう必要がある場合、Offline アクティベーションを実施します。

- 1) 「Offline Activation」を選択して、【Activate】ボタンをクリックします。



- 2) 「Serial Number」にプログラムキーを入力し「Use Action Internet connection」のチェックを外した状態で【Activate】ボタンをクリックします。

《注意》

プログラムキーは半角英数字『23桁』です。

入力したプログラムキーの桁数が正しいかご確認ください。

Progress iMail Server Activation

Enter your activation key to activate your license for Progress iMail Server on this computer.

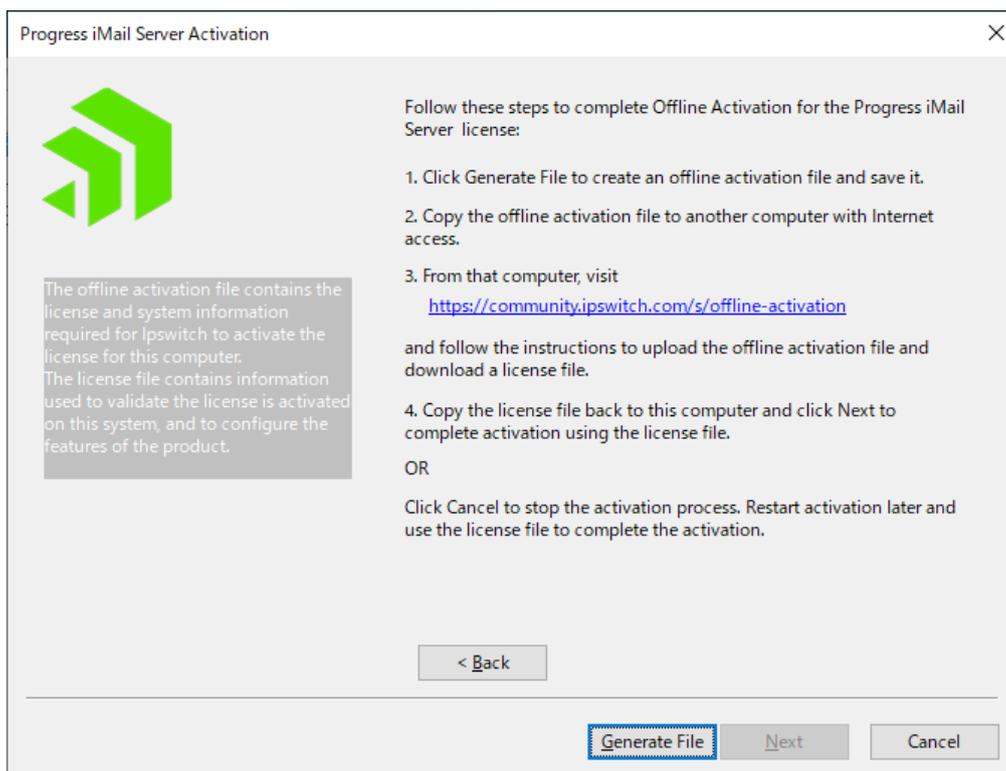
Activation Key:

[Don't have an activation key?](#)
[Lost your activation key?](#)
[Have a license file?](#)

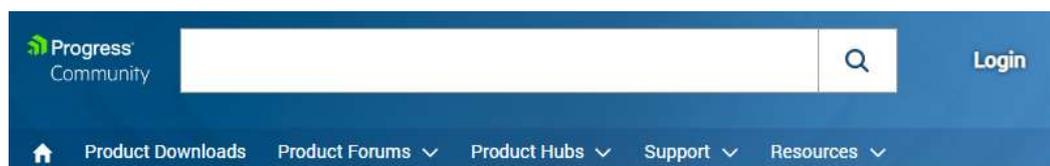
Use active Internet connection. (Uncheck to force offline activation.)

< Back Activate Cancel

- 3) 【Generate File】ボタンを押して、ファイル「license.ofa」をローカル上の任意のディレクトリに保存します。



- 4) 任意のディレクトリに「license.ofa」を保存してください。取得した「license.ofa」をインターネットにアクセス可能な別の PC へコピーします。
- 5) 4) のファイルをコピーしたPCの Web ブラウザで下記を開きます。
<https://community.progress.com/s/offline-activation>
- 6) リストボックスで “Upload OFA File” を選択し、[Submit] ボタンをクリックします。



OFFLINE ACTIVATION

Restart

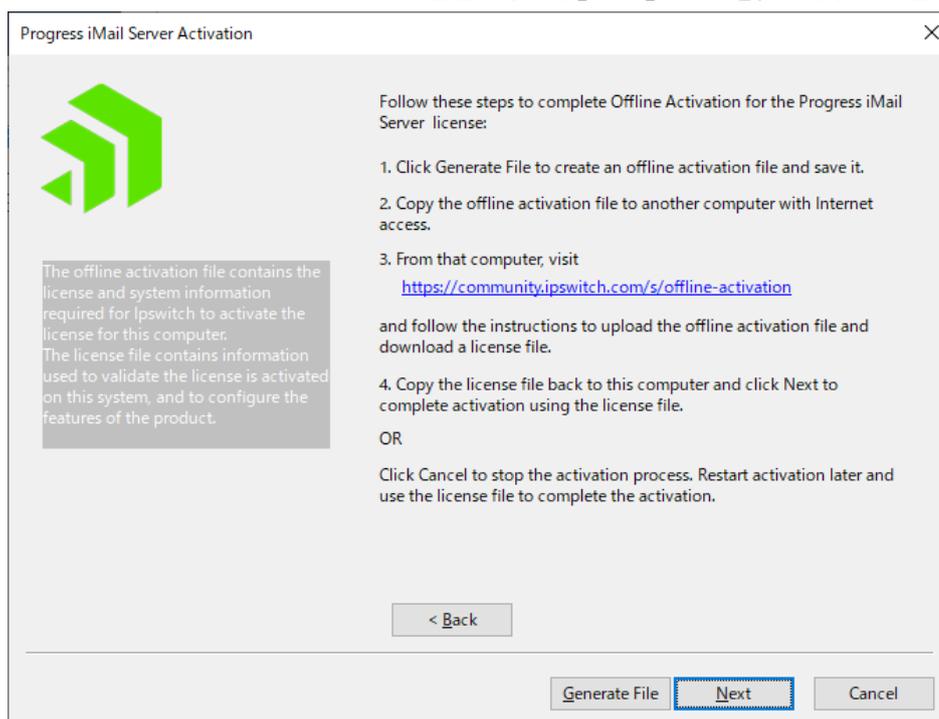
Offline activation allows you to unlock your product when it cannot connect to ipswitch using the Internet. Normal activation occurs automatically using the Internet

Select your method of offline activation:

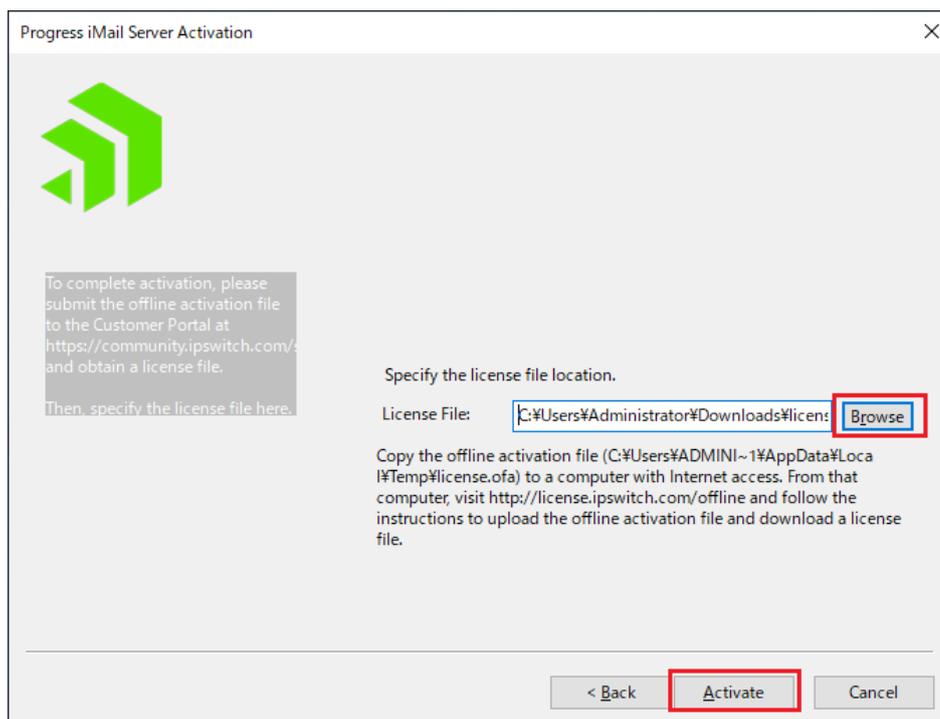
- 7) 「ファイルを選択」をクリックし、表示された画面で license.ofa ファイルを指定し、「開く」をクリックします。Web画面上の [Submit] をクリックすると生成された「license.txt」がローカルにダウンロードされます。



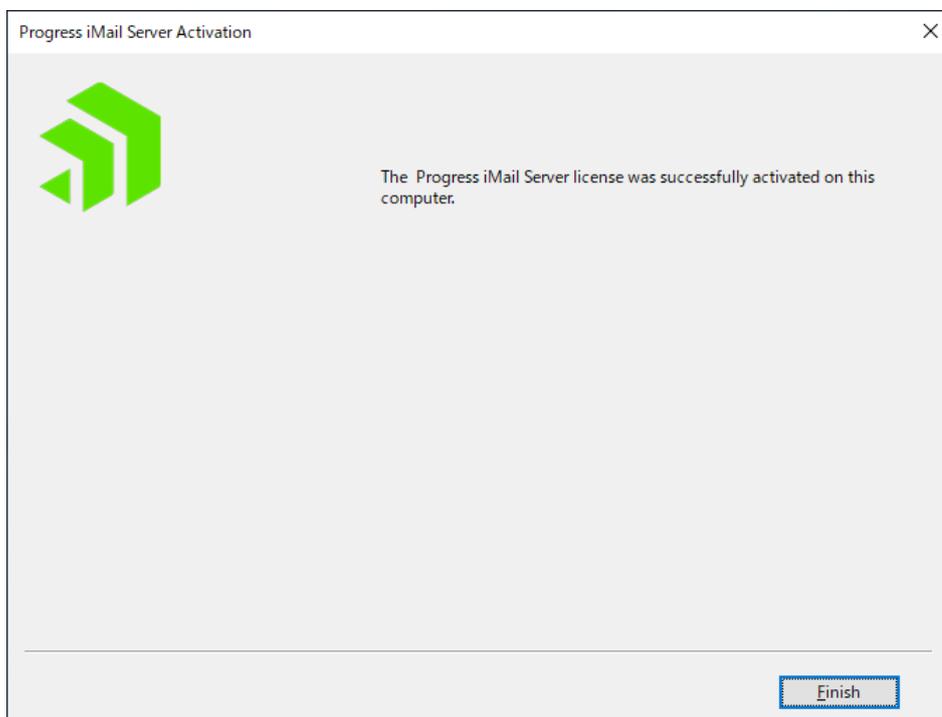
- 8) 7) のファイルを IMail Server をインストール中のサーバーにコピーします。
9) IMail Server のアクティベーションの画面に戻り、【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。



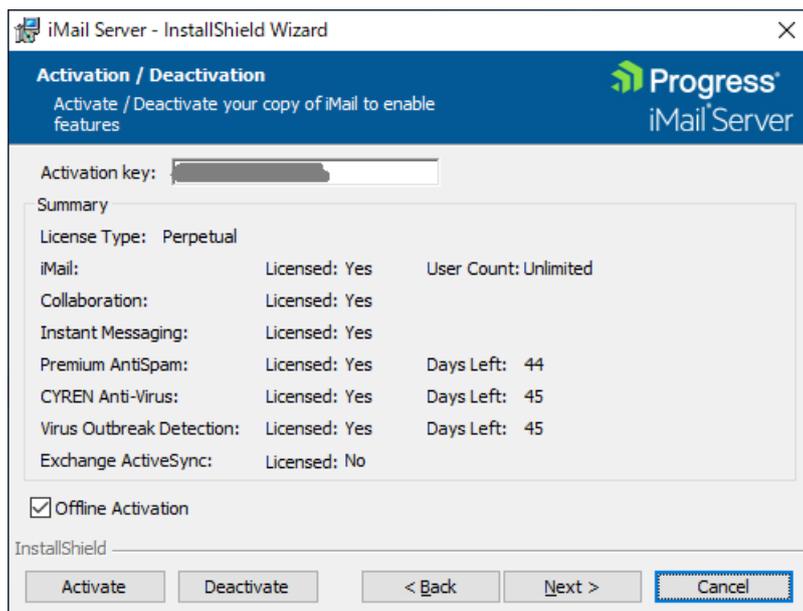
- 10) License File フィールドの【Browse】ボタンを押して、保存した「license.txt」を選択し、【Activate】ボタンを押します。



- 11) オフラインアクティベーションが成功した画面になります。【完了】ボタンを押します。



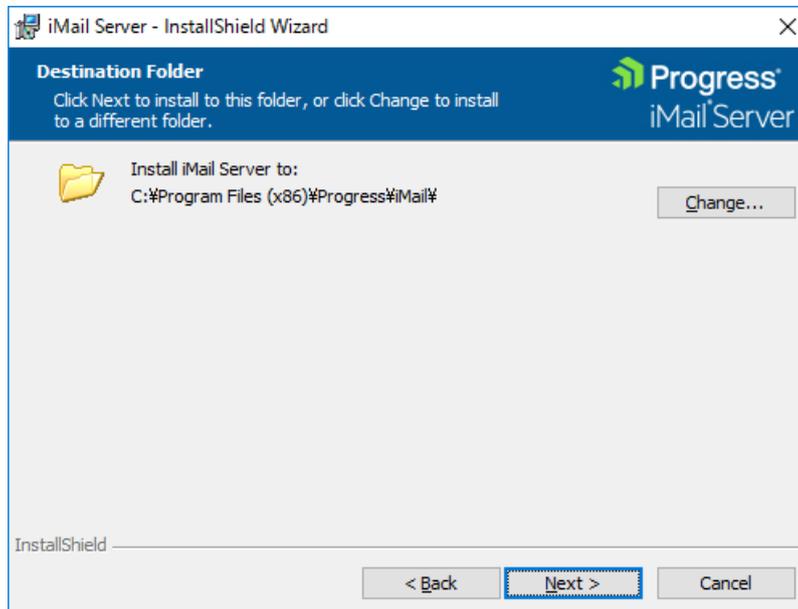
- 12) アクティベーションが正常処理されますと下記のようにライセンス化された項目が表示されます。
【Next】ボタンを押して、次の画面に進みます。



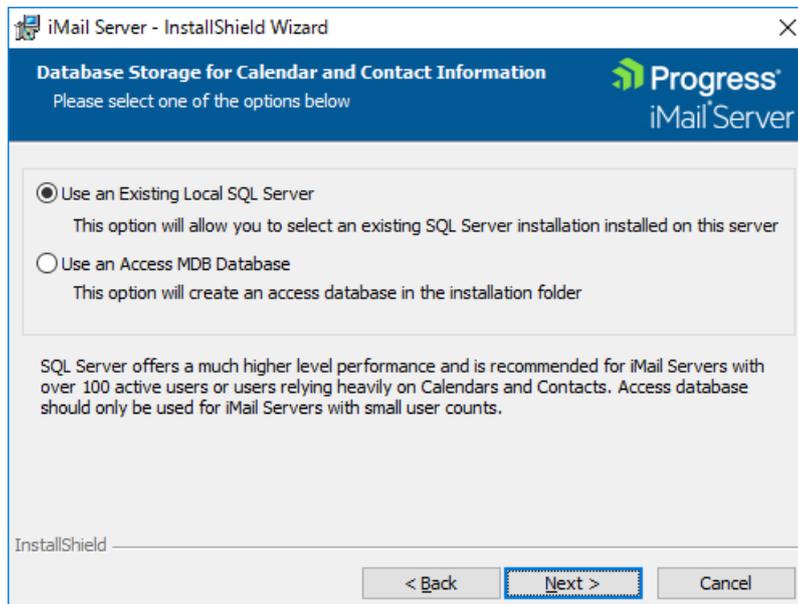
アクティベーション完了後、引き続き次ページ以降の「4:新規インストール」の作業を行います。

4:新規インストール

- 1) アクティベーションが終了しますと本画面が表示されインストールが行われます。
インストールディレクトリを指定して【Next】ボタンを押して次の画面に進みます。パスやディレクトリには全角文字を含める事はできません。
デフォルトでは C:\Program Files (x86)\Progress\iMail\となります。

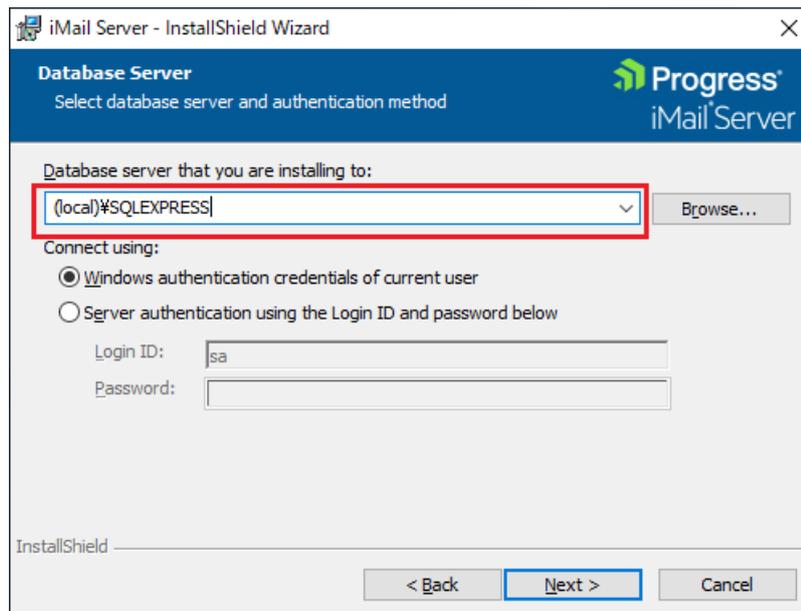


- 2) 利用するデータベースを選択します。
選択されたデータベースに **WebMessaging のアドレス帳情報**が登録されます。
この詳細については「1:インストール前に」の【注意】をご参照ください。



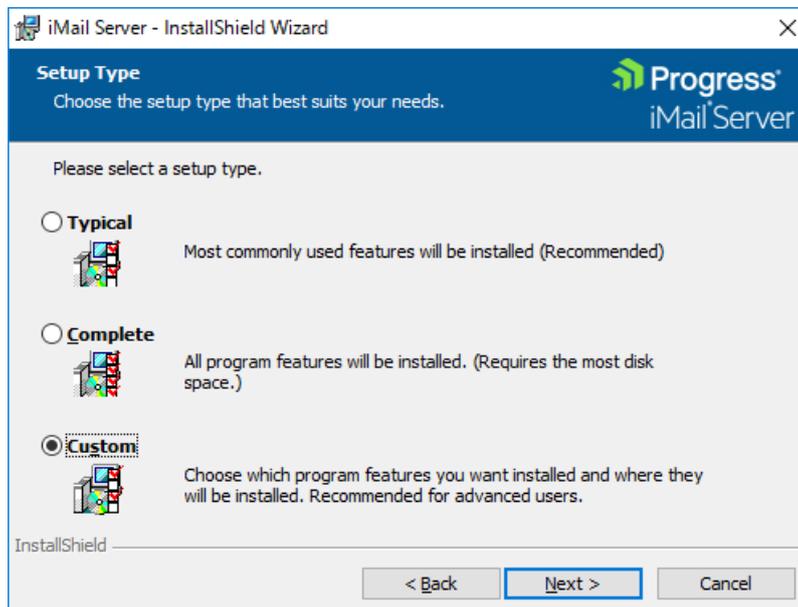
- (1) Use an Existing Local SQL Server
既にインストール済み の SQL Server を利用します。
- (2) Use an Access MDB Database
mdb 形式のデータベースを「Ipswitch\iMail\Workgroupshare\data」に設定します。

「Use an Existing Local SQL Server」を選択した場合、下記画面が表示されます。
プルダウンより SQL Server がインストールされているサーバーを選択します。



※ローカルにインストールされた SQL Server Express を利用する場合、「(local)\SQLEXPRESS」を選択します。

3) インストールする機能を選択します。



(1) Typical

IMail Server v12.6 の標準構成 (WebMessagng と WebAdmin を含む)がインストールされます。

(2) Complete

IMail Server v12.6 の全ての機能をインストールします。

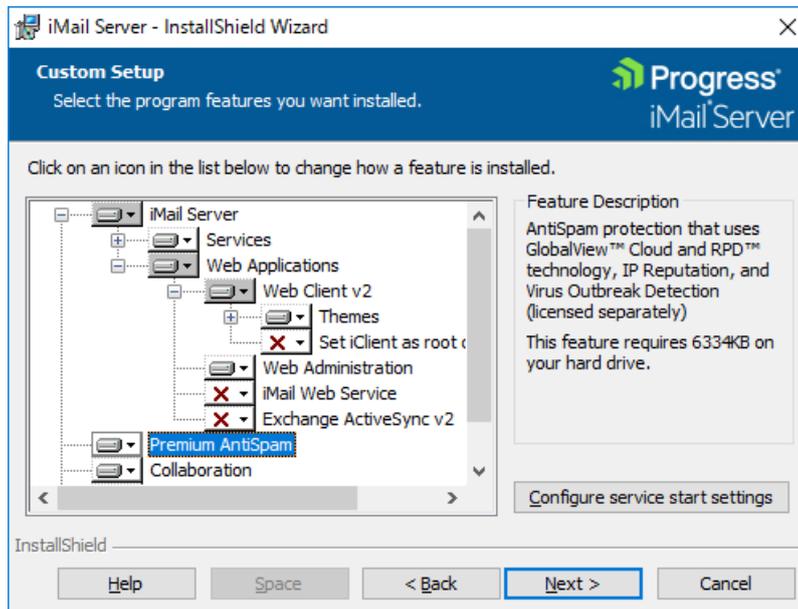
(3) Custom

インストールするコンポーネントを選択できます。

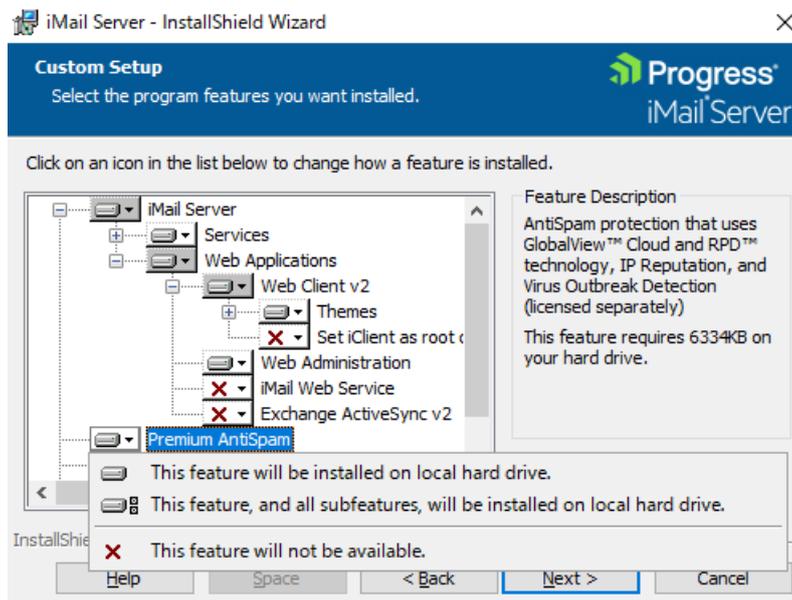
「Custom」を選択し、【Next >】をクリックします。

詳細は次ページ以降をご確認ください。

- 4) 「Custom」を選択した場合、インストールするコンポーネントを選択できます。
「+」をクリックするとその配下の機能が表示されます。



「▼」を選択するとインストール可否が決められます。インストールしない機能は「**× This feature will not be available**」を選択します。



IMail Server v12.6 でインストールが選択できる機能は以下の通りです。

「+」をクリックし全機能を表示してください。

(1) IMail Server

1, Services

IMail Server で稼働するサービスです。この機能は必須でインストールされます。

2, Web Applications

WebMessaging(Web メール)機能です。

2-1,Web Client v2

a,Themes

WebMessaging 機能で利用する「色」と「イメージ」が格納されます。「Default」は必須ですが、それ以外はインストール可否を選択できます。

b,Set iClient as root

WebMessaging 機能にアクセスする際、通常 http://FQDN/iclient とアクセスしますが、有効した場合 http://FQDN/と「iclient」を指定せずにWebMessagingへアクセス可能です。

2-2,Web Administration

IMail Server の Web 管理画面です。

2-3,Exchange ActiveSync

Microsoft ActiveSync を利用してメールデータをモバイル端末と同期します。

日本では未サポート機能の為「× This feature will not be available」を選択します。

2-4,IMail Web Service

開発元で提供しているメールアーカイブソフトとの連携で利用されるサービスです。

日本では未サポート機能の為「× This feature will not be available」を選択します。

(2) Premium Anti-spam

CYREN 社のエンジンを利用し受信メールのスパム判定を行います。

IMail Premium ライセンスを購入したお客様はインストールします。

IMail Premium ライセンスを購入されていないお客様は「× This feature will not be available」を選択します。

(3) Collaboration

WebMessaging で「共有連絡帳」機能を利用する際に選択します。

※日本国内では「WebMessaging 共有連絡帳」機能のみをサポートしております。

設定方法については別紙「WebMessaging 共有連絡帳作成方法」をご参照ください。

利用しない場合「× This feature will not be available」を選択します。

(4) Instant Messaging

チャット機能です。利用しない場合「× This feature will not be available」を選択します。

(5) IMail Anti-Virus powered by CYREN

CYREN 社製のアンチウイルスソフトです。

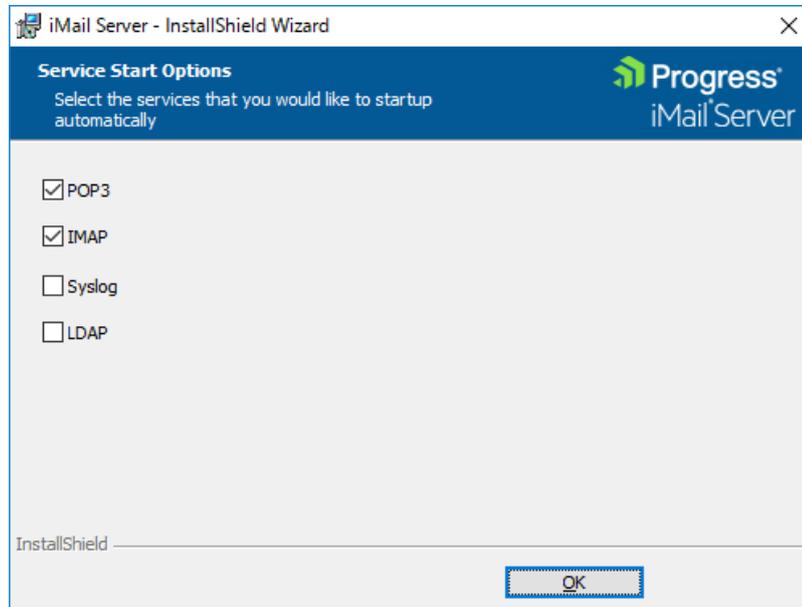
IMail Anti-Virus ライセンスを購入されたお客様は本機能を選択します。

購入されていないお客様は「× This feature will not be available」を選択します。

【Configure service start settings】をクリックしますと、IMail Server インストール終了時又は OS 起動時に自動起動する IMail Server のサービスを選択できます。起動させたいサービスをチェックし【OK】をクリックします。

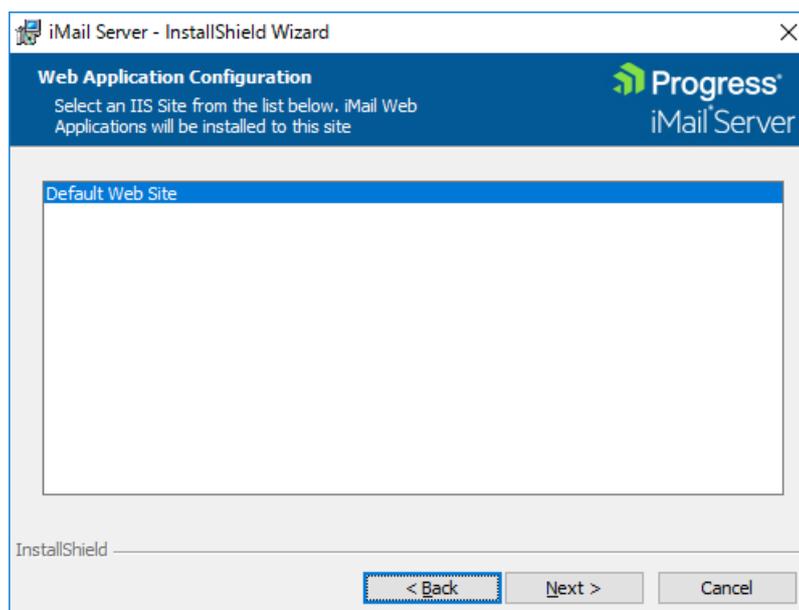
※OS 起動後の自動起動については Windows のサービスより設定する事も可能です。

※IMail SMTP Service と IMail Queue Manager Service はデフォルトで自動起動です。



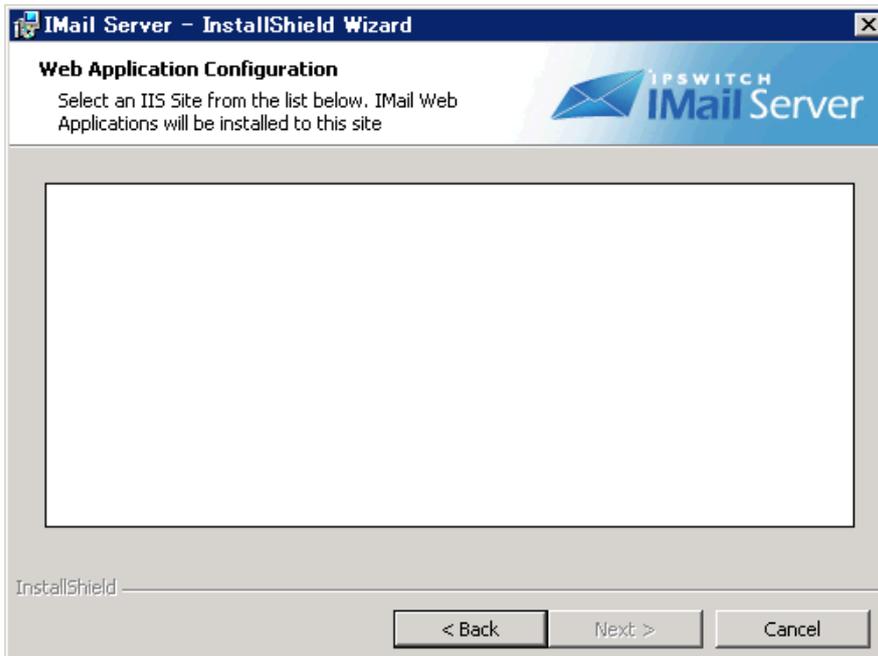
- 5) IMail の Web Administration と WebMessaging が IIS 上で利用する Web サイトを選択します。デフォルトは 80 番を利用した「Default Web Site」となります。

別のポート番号で IMail を利用したい場合、IIS 側で事前に Web Site を作成しておくことで、この画面で表示され、選択する事ができます。設定終了後【Next】ボタンを押して進みます。



《注意》

ご利用の環境によっては下記のように IIS Site が表示されない場合があります。



この場合、インストーラーを終了させ、インターネットインフォメーションサービスマネージャ - サイト - IMail を設定しようとしているサイト(デフォルトでは Default Web Site)より「バインド」を選択し、**http 以外のサイトを削除**します。その後再度 IMail インストーラーを起動し、表示されるか確認ください。



- 6) 本画面で Primary Domain を設定します。これは IMail Server における”一次ホスト”です。デフォルトではインストールマシンの”フルコンピューター名”が設定されています。
この”フルコンピューター名”を Primary Domain として利用されるメールアドレスに書き換えていただくことを推奨します。
登録された名称が IMail Server ユーザーの@以降のドメインとして利用されます。
インストールマシンに複数 IP アドレスが割り当てられている場合「IP Address」のプルダウンから選択ができます。
「Create IMail System Administrator」にチェックを入れる事で、インストール終了時に Administrator 権限を持つユーザーを作成する事ができます。これはインストール終了後に管理画面から作成する事も可能です。設定終了後【Next】ボタンを押して進みます。

iMail Server - InstallShield Wizard

iMail Primary Domain
Enter the name for the primary domain and select an IP address

Primary Domain
imailserver.test.com

IP Address
10.21.3.164

Create iMail System Administrator

User ID
admin1

Full Name
admin user 1

Password
.....

Confirm Password
.....

InstallShield

< Back Next > Cancel

- 7) 【Install】ボタンをクリックしインストールを実行します。

iMail Server - InstallShield Wizard

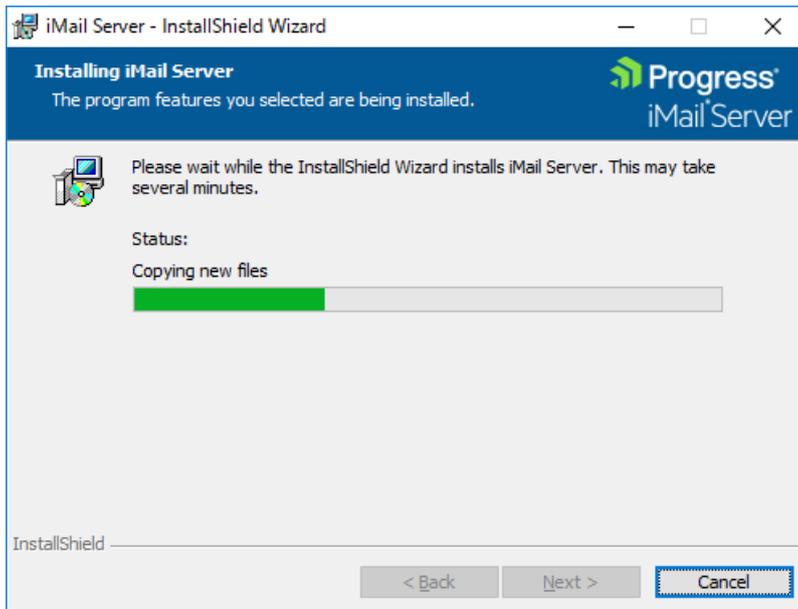
Ready to Install the Program
The wizard is ready to begin installation.

Click Install to begin the installation.
If you want to review or change any of your installation settings, click Back. Click Cancel to exit the wizard.
If you want to manually set permissions after the install has completed please select the following option.

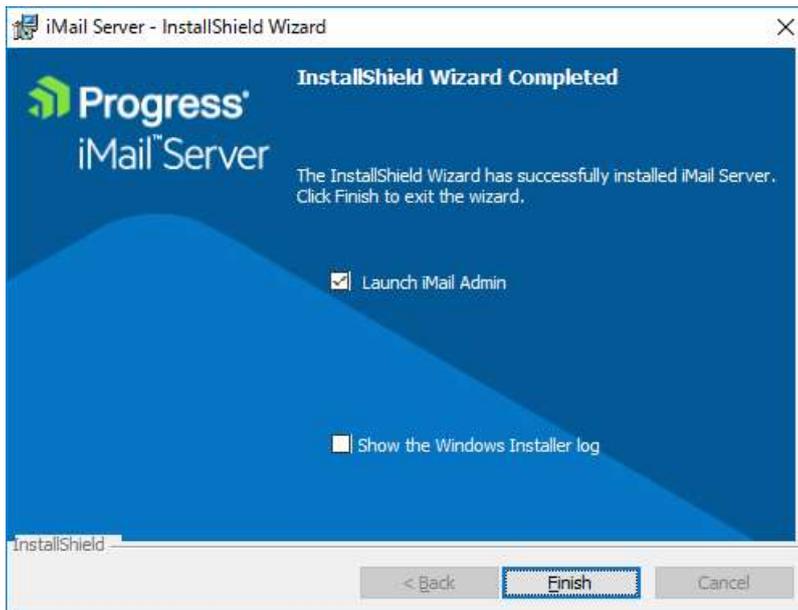
Do not set permissions

InstallShield

< Back Install Cancel



- 8) インストールが終了すると下記画面が表示されます。
「Launch IMail Admin」をチェックし【Finish】をクリックすると管理画面が表示されます。



IMail WebMessaging (Web メール)をお使いになる場合、インストール完了後に下記のファイル編集を行ってください。これにより「本文編集時改行キーにより不要な行が追加される問題」が対策されます。

(手順)

IMail Server インストールフォルダの ¥IMail¥WebDir¥WebClient v2¥Common¥Blank.css ファイルをテキストエディタで開き、ファイルの最終行に下記の行を追加し、保存します。

```
p { margin-top: 0em; margin-bottom: 0em; }
```

編集後の Blank.css ファイル は次のようになります。

 Blank.css - メモ帳

ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)

```
/* This is a blank file added to make the Telerik editor display emails
body {
}
p { margin-top: 0em; margin-bottom: 0em; }
```

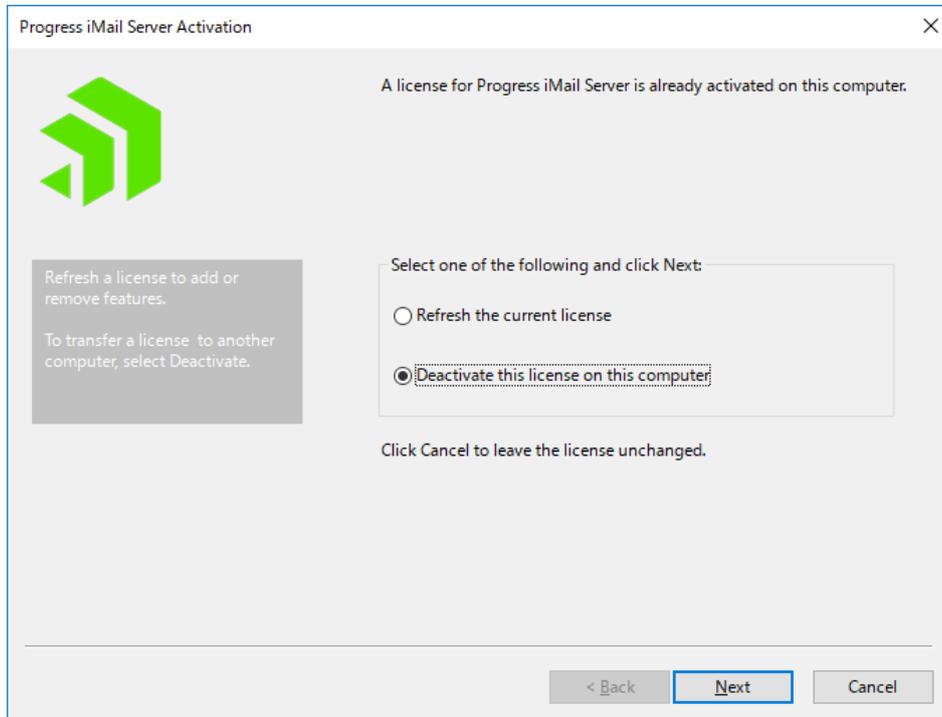
Blank.css ファイルの編集後も問題が修正されない場合は、お使いのブラウザの閲覧履歴から「インターネット一時ファイルおよび Web サイトのファイル」(IE11)、「キャッシュされた画像とファイル」(Chrome) の削除を行ってください。

5: ディアクティベーション/評価ライセンスから製品版ライセンスへの切り替え

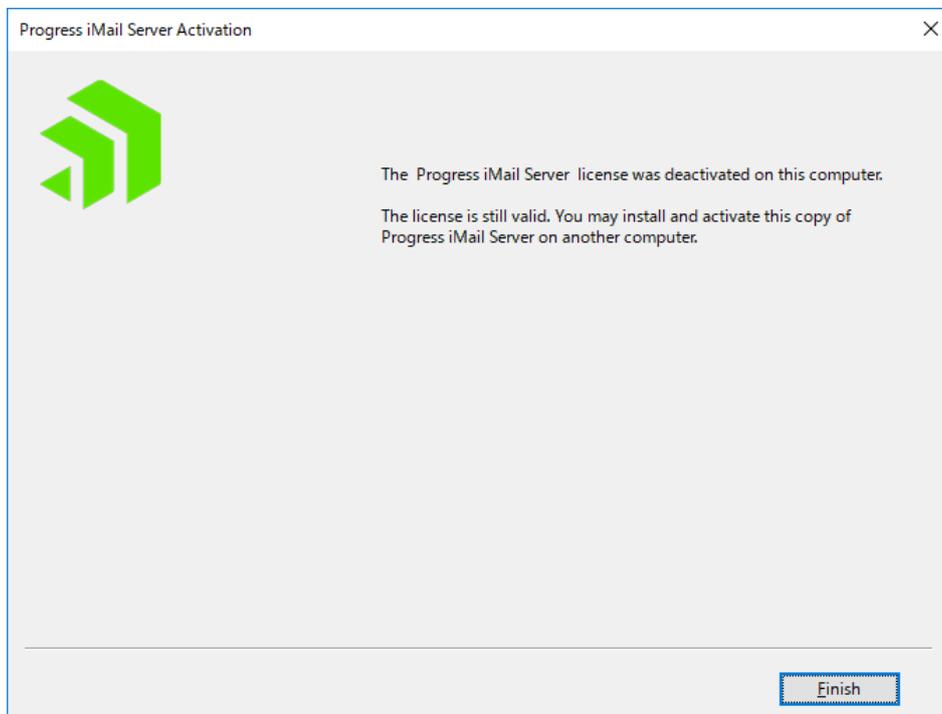
ディアクティベーションはサーバー移行の際に必要な作業となります。評価ライセンスではディアクティベーションは不要です。

1) ディアクティベーション

- (1) スタート - Progress - iMail Server Activation Utility を起動します。
- (2) 「Deactivate this license on this computer」を選択し、【次へ(N)】をクリックします。



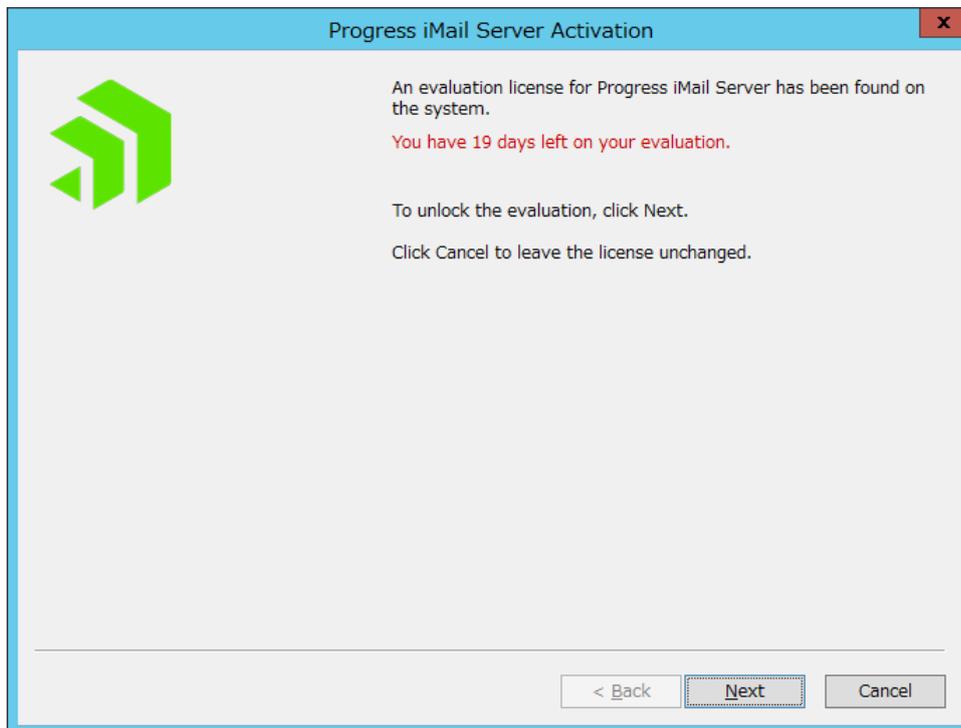
- (3) 下記画面が表示され、ディアクティベーションは終了です。



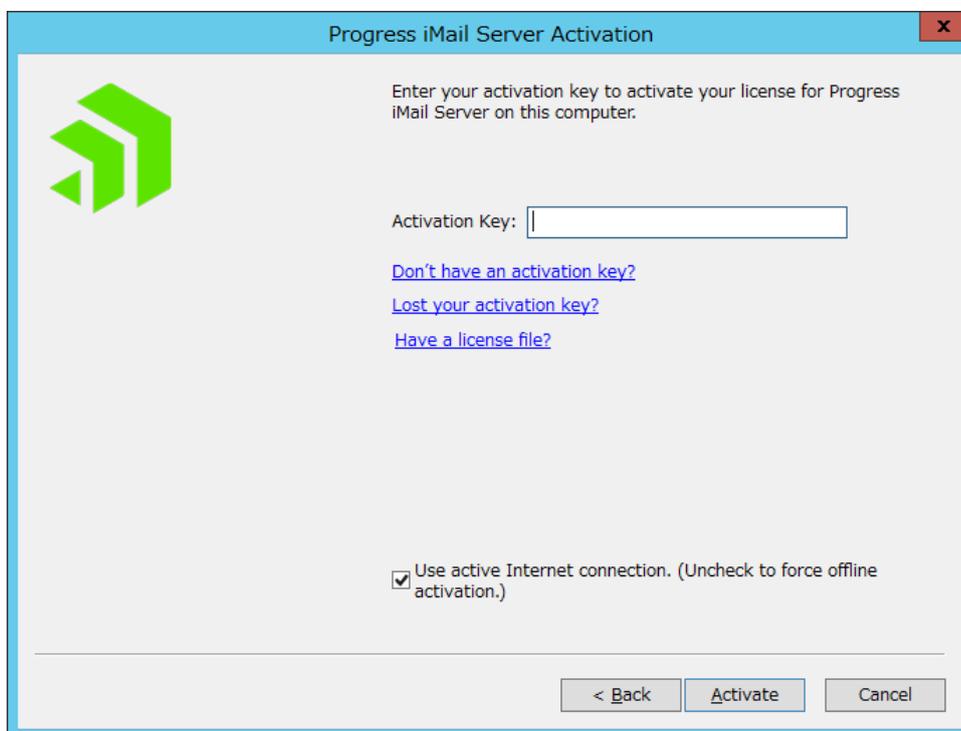
- ディアクティベーションは「製品版プログラムキー」で可能です。評価ライセンスでは行えません。
- IMail Server がインストールされているサーバーが直接インターネットに接続できない環境の場合、お客様でディアクティベーションはできません。サポートセンターで実施する必要があります。「製品版プログラムキー」と「コンピューター名」をサポートにご連絡ください。
- ディアクティベーションすると IMail Queue Manager Service が停止し、メール送受信ができなくなります。

2) 評価ライセンスから製品版プログラムキーへの切り替え

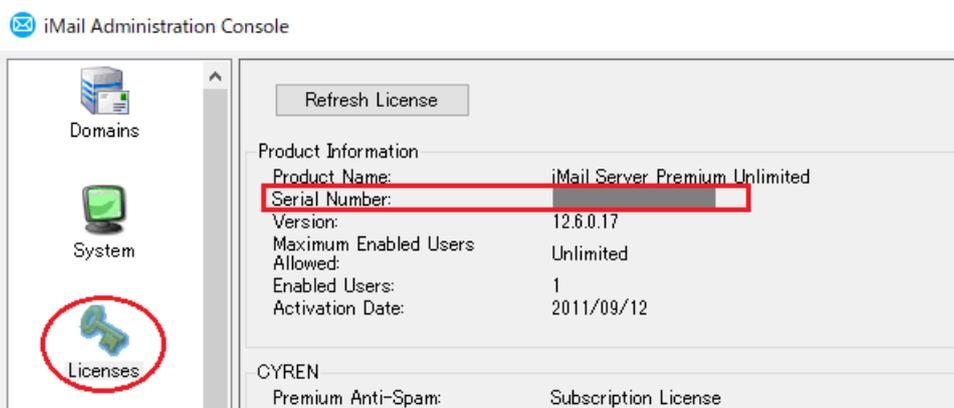
- (1) スタート - すべてのプログラム - Progress - IMail Server Activation Utility を起動します。
- (2) 【Next】をクリックします。



- (3) 「Activation Key」に製品版プログラムキーを入力し【Activate】をクリックします。
製品版プログラムキーは半角英数字で 23 桁です。



- (4) 「The Progress iMail Server license was successfully activated on this computer」と表示されるとアクティベーション正常終了です。【Finish】をクリックし本画面を閉じます。
- (5) IMail Administration Console - Licenses の「Serial Number」に製品版プログラムキーの先頭 15 桁が表示されている事を確認します。



- 評価ライセンスではディアクティベーションが不要です。
- IMail Server がインストールされているサーバーが直接インターネットに接続できない環境の場合、オフラインアクティベーションの手順で製品版プログラムキーをアクティベーションします。

6:SQL Server オブジェクトの設定

IMail Server のインストール後、SQL Server に対して使用するオブジェクトの設定を行う必要があります。

IMail WebMessaging (Web メール) を使用するにはこの設定が必要です。

※IMail WebMessaging (Web メール) をご利用にならない場合や、IMail Server インストール時にアドレス帳データベースとして Access MDB Database を選択された場合には本章の設定は不要です。

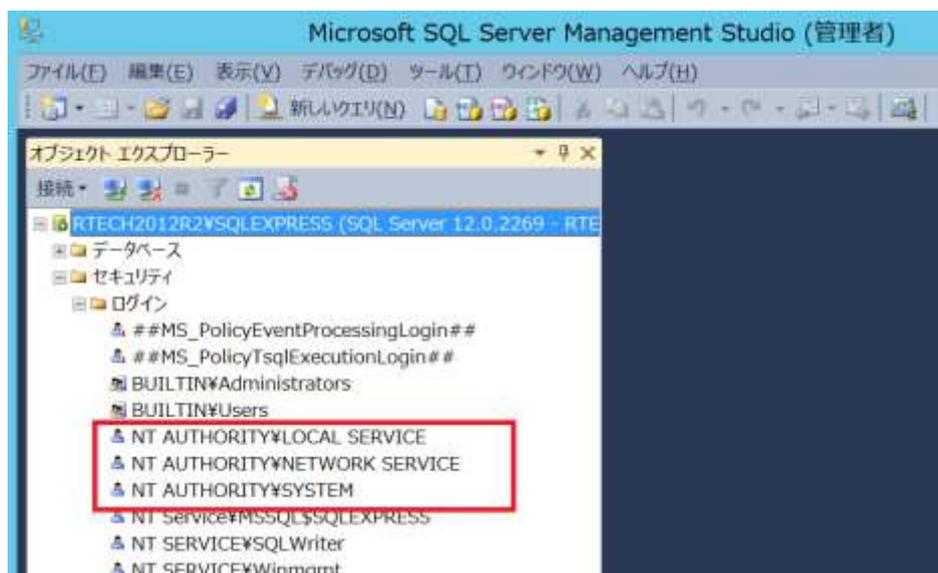
この設定作業は SQL Server Management Studio を使用して行います。インストールされていない場合にはインストールしてから下記手順に従ってください。

- 1) Windows の管理者アカウントで SQL Server Management Studio を起動し、「オブジェクト エクスプローラー」の [セキュリティ] - [ログイン] 以下に下記3つのオブジェクトが存在していることを確認します。

NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE

NT AUTHORITY¥NETWORK SERVICE

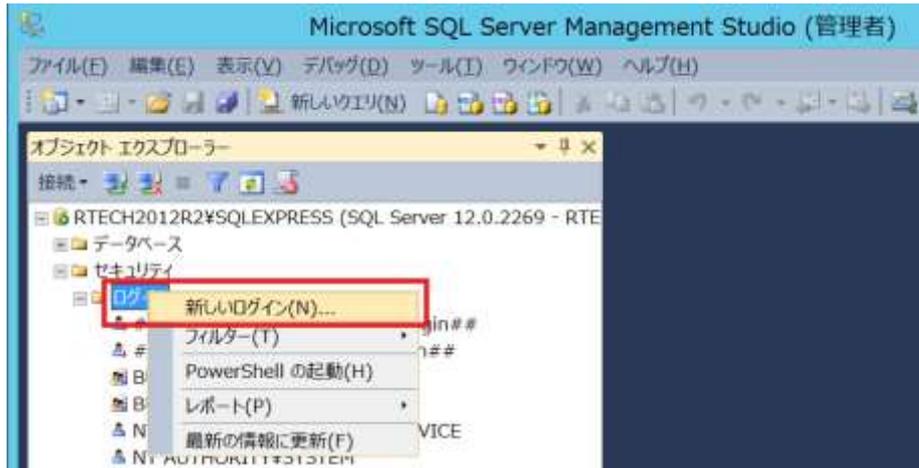
NT AUTHORITY¥SYSTEM



いずれか存在していない場合には、手順 2) ~ 5) に従って、追加します。

3つとも存在している場合には、手順 6) に進みます。

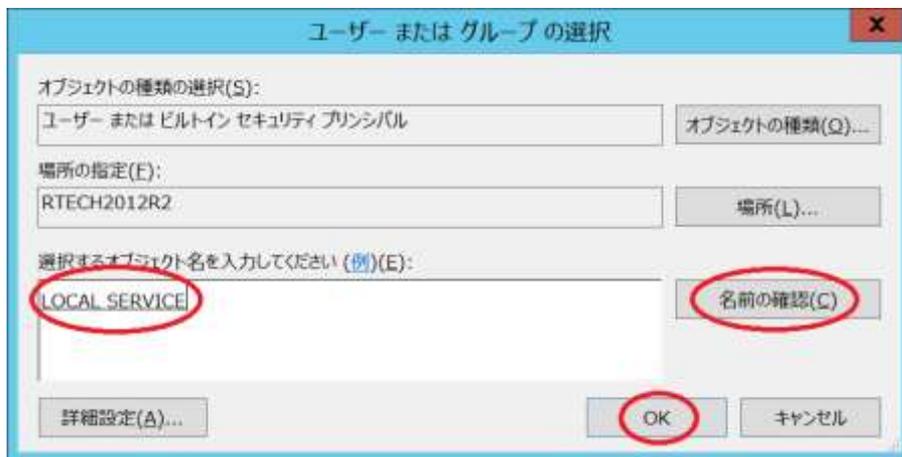
- 2) [セキュリティ] - [ログイン] を右クリックして [新しいログイン(N)...] をクリックします。



- 3) 次の画面の[検索] をクリックします。



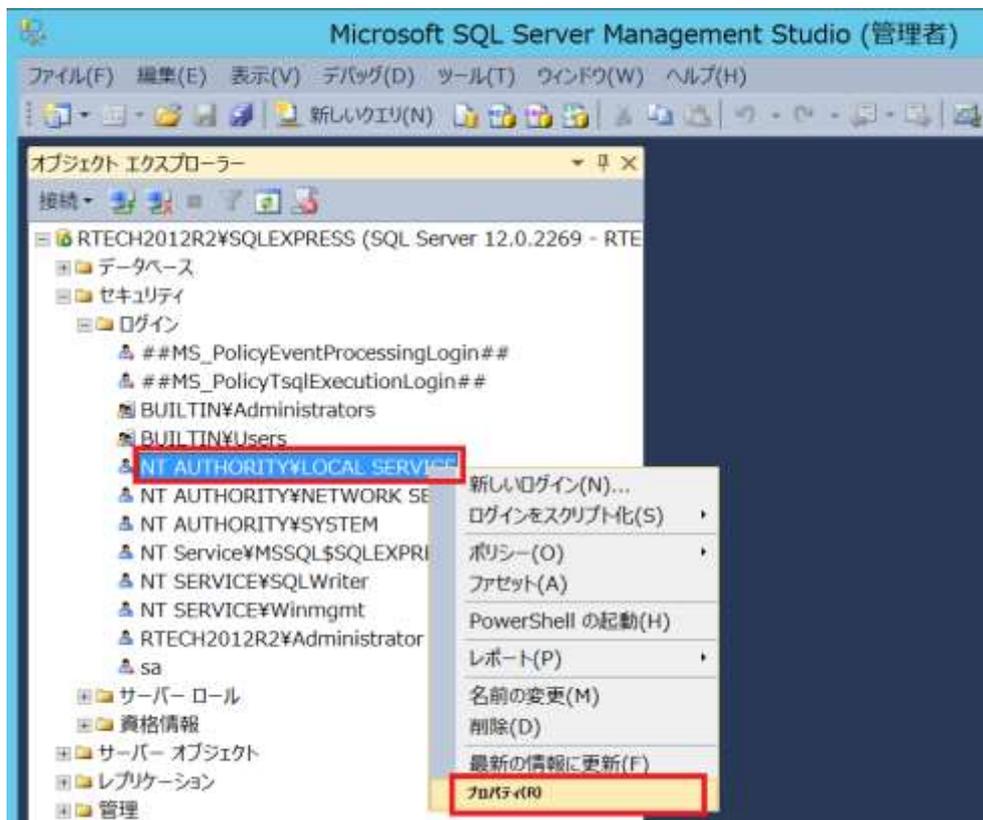
- 4) オブジェクト名を入力して [名前の確認] で確認後、OK をクリックします。
下記は NT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE の場合の入力例です。



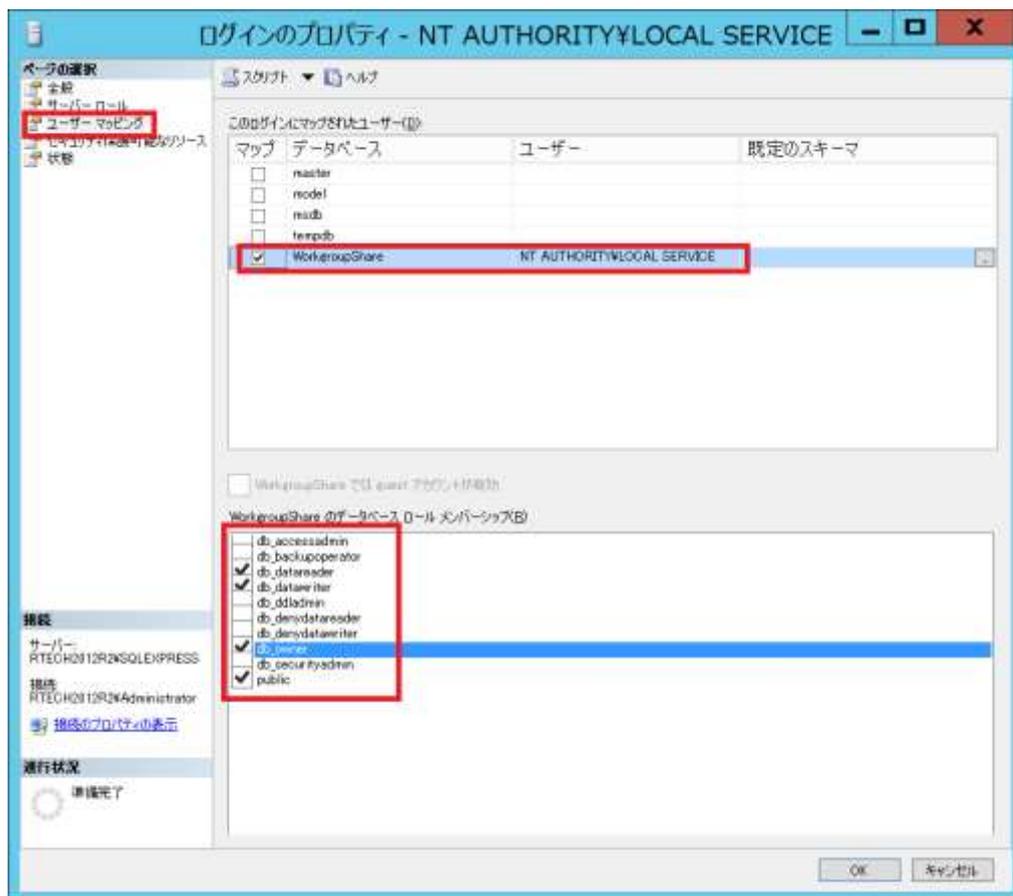
- 5) 下記のように[ログイン名]に追加したオブジェクトが表示されているのを確認後、設定画面下のOKをクリックします。



- 6) 「オブジェクト エクスプローラー」の [セキュリティ] - [ログイン] の NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE を右クリックしてメニューから [プロパティ] をクリックします。



- 7) 「ページの選択」から [ユーザーマッピング] を選択し、右側に表示される [WorkgroupShare] を選択します。画面下の [WorkgroupShare のデータベース ロール メンバーシップ] で下記のように4つのオプションをチェックして OK で閉じます。



[WorkgroupShare のデータベース ロール メンバーシップ] で選択するオプション

db_datareader
db_datawriter
db_owner
public

※上記のオプションが選択できない状態のときは、[WorkgroupShare] のチェックを一旦はずし、再度チェックを付けてみてください。

- 8) 下記のオブジェクトに対しても手順 6) ~ 7) を繰り返します。

NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE

NT AUTHORITY\SYSTEM

- 9) SQL Server Management Studio を終了します。

以上で SQL Server オブジェクトの設定作業は完了です。